

# 日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会

## シンポジウム2

わが国の病院フォーミュラリの方法について

日時

2020年

11月1日(日) 15:00-17:00

WEB形式・ライブ配信での開催

座長  
兼  
演者

**今井 博久 先生**

東京大学大学院医学系研究科  
地域医薬システム学講座 教授

**西澤 健司 先生**

東邦大学医療センター大森病院 薬剤部 部長

**後藤 一美 先生**

聖路加国際病院 薬剤部 部長

**臺 裕子 先生**

JCHO 東京新宿メディカルセンター 薬剤部 部長

パネリスト

共催

日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会 / 東和薬品株式会社

# スポンサードシンポジウム2

## 東京大学大学院医学系研究科 地域医薬システム学講座 教授 今井 博久 先生

厚生労働科学特別研究事業の指定研究としてフォーミュラ実施の方法論開発の研究班が本年七月から始動した。研究代表者は演者の今井博久(東大)が務め、研究分担者は島貫隆夫氏(日本海総合病院)、栗原健氏(日病薬)、川上純一氏(浜松医科大)、小池博文氏(横浜市大)である。日病薬会員を通じた病院フォーミュラの現状調査、先行の病院フォーミュラの事例分析などを行う。また現在進行中の大阪府八尾市、茨城県古河市などの中核病院の病院フォーミュラから地域フォーミュラの展開、といった最新の事例分析などを併せて行う。すなわち、従来からの病院内だけで完結するタイプの病院フォーミュラ作成や、病院の収益や恣意的な薬剤選定に終始するのではなく、地域医療への拡がりを持ち標準的な薬物治療が病院と診療所の間でシームレスに実践され、最善で最良の患者アウトカムがもたらされる方法を検討する。研究班の検討では、病院フォーミュラにおける「薬剤が選択されるプロセス」「COIの透明性」「薬物治療のクオリティ担保」「地域フォーミュラとの一致性」「選定薬剤の製薬企業選考基準(原薬国・自社査察・自社工場など)」などが議論される。300床未満の中小病院が8割以上のわが国の病院規模事情(薬剤師の労力不足など)を考慮に入れることが方法論の前提条件になる。成果物として実施マニュアルを編纂発行し、全国の病院に配布する予定である。次回の2022年度診療報酬改定の際には、本研究の内容が実用的な方法として採用されることを期待したい。また全国のフォーミュラかまたは報告書のモデル事例を日本病院薬剤師会のホームページに掲載し、会員薬剤師間の「共有の財産」として有効活用できるように木平会長に依頼している。なお、学会当日は研究事業の中間報告を行う。研究班はすでに厚労省担当者と研究分担者からなる班会議を数度開き、研究理念の確認、分担者からの進捗の共有などを行い、本日まで順調に進んできている。病院の医師と薬剤師のみならず地元医師(会)、薬剤師(会)、ひいては患者にも受け入れられるフォーミュラの作成および実施に関する方法の普及を目指したい。

共 催

日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会 / 東和薬品株式会社